

(法第 26 条関係「定款変更認証申請」)
(法第 28 条関係「書類の備置き」)
(法第 29 条関係「事業報告書等の提出」)

令和 5 年度の事業報告書

令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋

1 事業の成果

(1) 虹の家

小規模保育所 B 型として 0 歳児～2 歳児の保育を継続。定員 12 名。

0 歳児から 2 歳児までの月齢、年齢的に身体的行動力が異なる子ども全員が同室での生活をしているため、日々、注意深く見守るよう努めている。天気の良い日には散歩に出掛け季節を感じたり、日々の生活や遊びの中でも育ちや学びを促した。

全面自園内給食を提供しており、季節や行事に合わせたメニューや、栄養バランスのとれた食事を心掛けている。薄味を基本とし、年齢別に食べやすい大きさ、柔らかさに気を配り、彩りを考え、目で見て食欲をかきたてるよう工夫をした。その日の献立や写真を入口に掲示し、保護者にも盛り付けや切り方など参考にしていただけるよう、創意工夫のもと食育を推進し、保護者には食生活に関する相談、援助等の機会を作った。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度もボランティアの来所はなかった。園でも、例年以上に感染症対策に努め、職員のマスク着用や検温、手洗いはもちろんのこと、換気や消毒、除菌を徹底して行った。

また、今年度は初めて釜石保育会主催のコンサートへ参加した。市内の保育施設が一堂に会し、当園の子ども達も喜んで体を動かし、普段、園でも聞いているなじみの曲だったので飽きる事もなく、約 1 時間のイベントを楽しむことができた。保護者の参加もあったことで、普段の子ども達の様子を見る機会、保護者同士が顔を合わせる機会ともなった。

例年通り、平田子育て支援センターにてクリスマス保育参観を行った。朝の会から始まり、親子でのふれあい遊びでは『しゅりけん忍者』や『バスに乗って』の歌に合わせて体を動かしたり、シールを貼るだけの簡単なクリスマスリース作りを行った。自由遊びの時間は保護者間での交流もみられ、保護者もゆっくり関わる時間を持つことができ、職員も子ども達の家庭での様子など話を聞くことができた。友達や先生とのふれあいの様子が見れたり、他の家族との交流ができて良かったと保護者から感想も寄せられ、有意義な時間となった。

毎月、講師を招いて体操教室、えいご教室を開催している。ボールや輪、マットなどを使用し、楽しくからだ全体を使つての運動の機会や、英語の歌やダンス、海外の絵本に触れることで、海外の文化や英語に親しみをもち、異文化交流の機会を得られ、子ども達も毎回笑顔で楽しく参加できた。

また、今年度も中妻地区の津波避難訓練に参加し、近隣住民や施設の方々と一緒に、実際の避難により近い形での訓練を行った。0～2 歳児在籍の当園にとっては、散歩車を押して避難するのは狭さや障害物、段差なども多く、安全に避難するための課題は残るが、回数を重ねることにより、昨年度よりスムーズに避難できるようになった。

毎月 2 回のアドバイザー訪問は、保育への助言や感想、情報交換などの指導をしていただき、よりよい保育の提供のため、職員間での情報共有やスキルアップに努めた。

(2) ベビーホーム・虹

小規模保育所 B 型として 0 歳児～2 歳児の保育を継続。定員 12 名。

昨年から引き続き、毎月一回、講師を招いて体操教室を開催し、鉄棒、マット運動、輪投げなどを使った運動を子ども達の月齢に合わせて、指導していただいた。今年度からは、同様に、外部講師によるえいご教室を開き、歌やダンス、絵本を通じて子供たちが英語に触れる機会を設けた。

全面自園内給食を提供しており、季節や行事に合わせたメニューや、栄養バランスのとれた食事を心掛けている。薄味を基本とし、年齢別に食べやすい大きさ、柔らかさに気を配り、彩りを考え、目で見て食欲をかきたてるよう工夫をした。その日の献立や写真を入口に掲示し、保護者にも盛り付けや切り方など参考にさせていただけるよう、創意工夫のもと食育を推進し、保護者には食生活に関する相談、援助等の機会を作った。

毎月、様々な災害を想定して、避難訓練を実施し、不測の事態に備えた対策を行っている。年に一度は消防署を含めての訓練をし、通報から初期消火、近隣の公園までの避難など、指導、評価をしていただいた。

また、12 月には恒例のクリスマス会を平田子育て支援センターで行った。朝の会では子どもたちの元気な挨拶から始まり、普段園で行っている体操や簡単な親子でのふれあい遊びも行った。

活動の時間では、体操教室で行っている種目を 4 つ行った。「とび箱」は、子どもたちが一人ずつ上によじ登り、ジャンプをして見せた。「かけっこ」は、よーいドンの一連の動きも取り入れながら、保護者が待っているところまで走って行った。「フープ」は、赤、黄、青のフープをそれぞれ対応するボールの元まで持って行き、「親子レース」は、子どもをダンボールで作った車に乗せて室内を一周した。

帰りの会では、大型絵本の読み聞かせの後、普段園で歌っている「やきいもグーチャーパー」「おかえりのうた」を歌い、保育者からプレゼントを受け取って解散となった。

子どもたちの成長した姿を保護者の方々に見ていただいただけでなく、普段は時間が取れずゆっくりと話す機会があまりなかった保護者の方々ともじっくりと話す時間が設けられたこともあり、有意義な保育参観となった。

(3) 平田子育て支援センター

令和 2 年 4 月 1 日より、釜石市の委託により事業を開始。

事業開始 4 年目となり、平田地域の方だけでなく、市内様々な地域からの利用が増えた。日々、利用者と接する中で、相談を受けたり、保育サービスに関する情報を提供したり、利用者と深く関わることができた。釜石市や地域の保健師等と連絡を取り合い、関係機関との連携、協力体制も整えた。

地域との関わりとしては、釜石高校のフィールドワークの一環として学生を受入れ、ワークショップを行い、子育て支援センターの在り方や今後の展望について一緒に考える時間を設けた。学生ボランティア等についても、積極的に受け入れていく予定である。

また、職員間のコミュニケーションや協力体制の構築をするため、日々の業務内容を振り返り共有し、ミーティングにおいてもケースカンファレンスをするなど、職員間の意識統一を図った。外部講師を招いての職員研修も行い、地域子育て支援拠点事業についての知識も深めた。

(4) ファミリーサポートセンター

令和2年4月1日より、釜石市の委託により事業を開始。

ユーザー会員数29名、サポーター会員数17名、両方会員数2名。サポーターの実質稼働人員は、主に当法人の職員となっている。

受託4年目となり、当法人でのファミリーサポート事業も定着してきた。今年度も外部でのイベント託児はなかった。前年度よりも回数としては少なく、計30回の活動を行った。ユーザー宅、サポーター宅、法人事務所、平田子育て支援センターを預かり拠点としているが、約9割以上の活動が子育て支援センターでの利用が多く、保護者のリフレッシュなど外出の際の預かりがほとんどだった。小学生の利用もあり、件数は少ないものの、利用の幅は広がってきているように感じた。

また、今年度は初めての会員相互の交流会を行った。講師を招いてフラワーアレンジメントをしながら情報共有、会員間の交流をする良い機会となった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
支援を必要とする人々を支える事業	「虹の家」 小規模保育事業B型	5.4.1 ～ 6.3.31	虹の家	8人	6ヶ月～2歳児の待機児童 (74名)	41,793
	「ベビーホーム・虹」 小規模保育事業B型	5.4.1 ～ 6.3.31	ベビーホーム・虹	6人	6ヶ月～2歳児の待機児童 (53名)	
子ども・子育て支援事業	「平田子育て支援センター」 地域子育て支援拠点事業	5.4.1 ～ 6.3.31	平田子育て支援センター	5人	1ヶ月～未就学児、保護者 (1,082人)	9,248
ファミリーサポート事業	「ファミリー・サポート・センター」 ファミリー・サポート・センター事業	5.4.1 ～ 6.3.31	ユーザー宅、サポーター宅、法人事務所、平田子育て支援センター	17人	3ヶ月～小学6年生 (30人)	930

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)

(備考)

- 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2(2)には、定款上、「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

(A4)